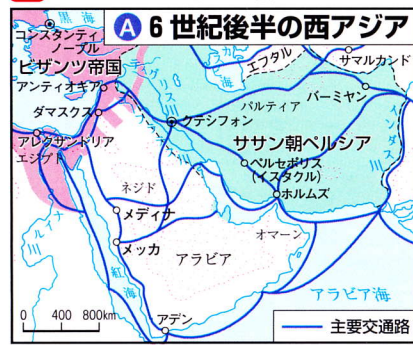


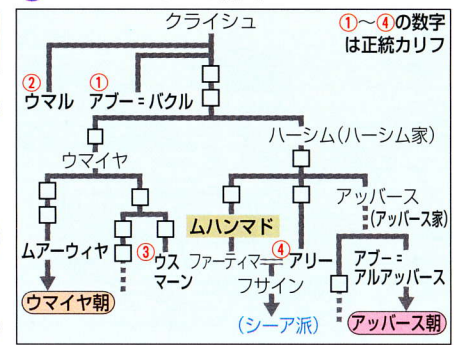
1 イスラム世界の変遷 (P401年) (P1018年)

教団国家時代	ムハンマド誕生(～632)
	610 ムハンマド、神の啓示を受け預言者としての活動開始
正統カリフ時代	622 ムハンマド、メッカからメディナに移る 「ヒジュラ(聖遷)」(イスラム暦元年) 教団国家の建設
	630 ムハンマド、メッカを奪回。アラビア半島を統一
	632 ムハンマド死 正統カリフ時代の開始(～61) 初代カリフ、アブー=バクル 都、メディナ ○イラク・シリア・エジプト征服
	642 ニハーヴァンドの戦い
ウマイヤ朝	651 ササン朝ペルシア滅亡。『コーラン』編集(650頃)
	ムアーウィヤ (位661～680)
	661 第4代カリフのアリーと戦いカリフを宣言 アリーの死後ウマイヤ朝創設(～750) 都、ダマスカス スンナ派とシーア派の分裂
	711 イベリア半島の征服。西ゴート王国滅亡
	732 トゥール・ボワティエ間の戦い (フランク王国のカール=マルテルに敗れる)
	アブー=アルアッバース (位750～754)
	750 ウマイヤ朝打倒。アッバース朝創設(～1258)
	751 タラス河畔の戦い(高仙芝が率いる唐軍を破る) (製紙法の西伝) (P56)
	756 イベリア半島に後ウマイヤ朝建国(～1031) 都、コルドバ
	762 アッバース朝、新都バグダード建設
後ウマイヤ朝(西カリフ国)	ハールーン=アッラシード (位786～809) 全盛期
	821 東部イランにターヒル朝建国(～873)
	867 イランにサッファール朝建国(～903)
	868 エジプトにトゥールーン朝建国(～905)
	874 東部イランにサーマーン朝独立(～999) 都、ブハラ
	909 チュニジアにファーティマ朝建国(シーア派)、カリフを称す(中カリフ国～1171)
	929 後ウマイヤ朝のアブド=アッラフマーン3世、カリフを称す(西カリフ国)
	932 ブワイフ朝(イラン系・シーア派)建国(～1055)
	940 中央アジアにカラ=ハン朝(トルコ系)建国(～1132)
	946 ブワイフ朝、バグダード入城
	962 アフガニスタンにガズナ朝(トルコ系)建国(～1186)
	969 ファーティマ朝、カイロを建設し都とする
	1038 セルジューク朝(セルジューク=トルコ)建国(～1157)
	1055 セルジューク朝のトゥグルル=ベク、バグダード入城(ブワイフ朝滅亡)。スルタン(スルタン)の称号を得る(1058)
	1056 モロッコにムラービト朝(ベルベル人)おこる(～1147)
	1096 第1回十字軍(～1099)
	1099 イェルサレム王国を建設(～1291)
	1130 ムワヒド朝(ベルベル人)建国(～1269)
1148 アフガニスタンにゴール朝(トルコ系)建国(～1215)	
1169 サラディン、エジプトにアイユーブ朝建国(～1250)	
1230 グラナダにナスル朝建国(～1492)	
1250 エジプトに、マムルーク朝(トルコ系)建国(～1517)	
1258 モンゴルのフラグ、バグダード占領(アッバース朝滅亡)	

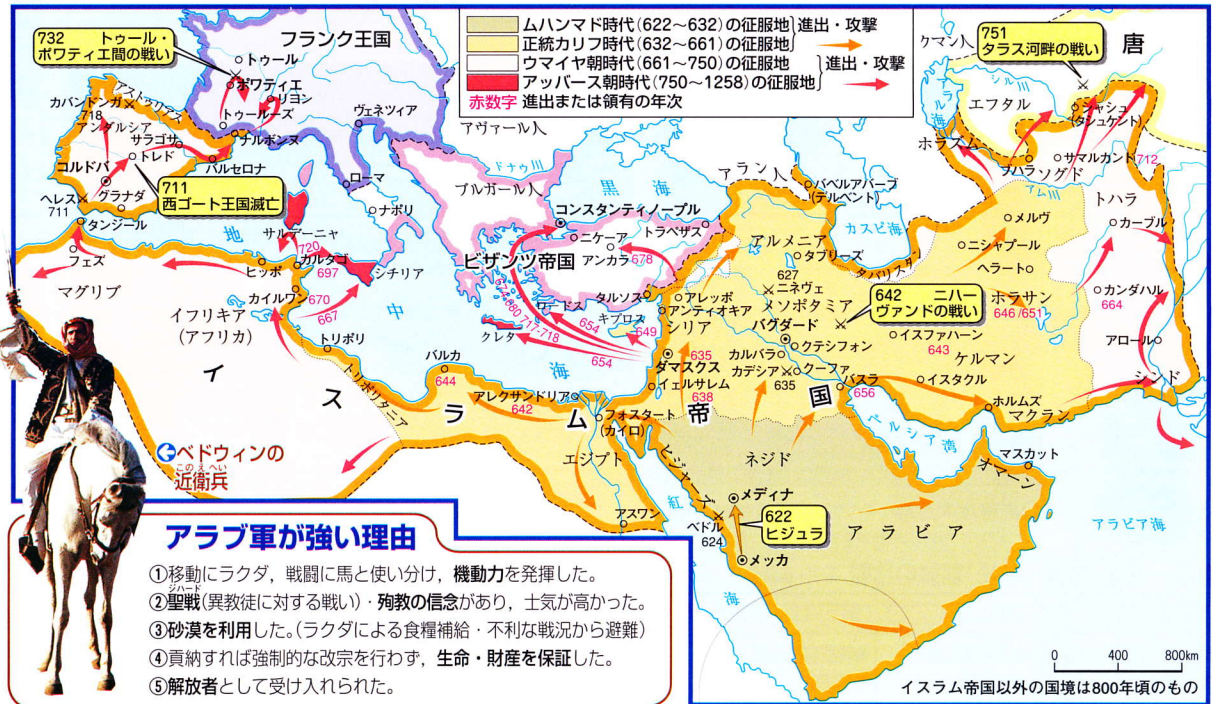
2 イスラム教の誕生 (P401地)



B ムハンマドの系図 (P236系)



3 イスラム帝国の発展 (P70地) (P113地)



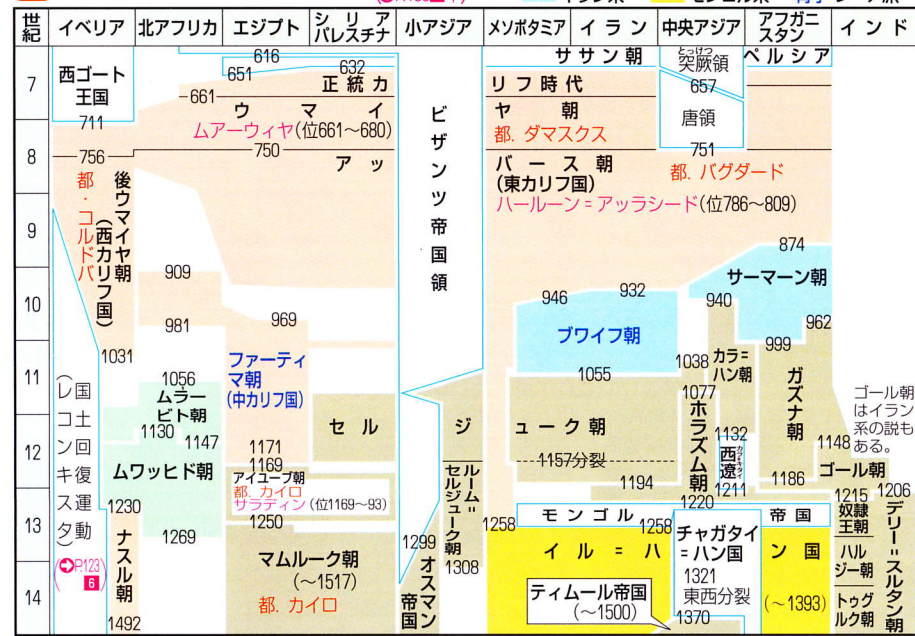
4 ウマイヤ朝とアッバース朝の統治体制

ウマイヤ朝 (661～750)	アッバース朝 (750～1258)
アラブ帝国(アラブ人第一主義による被征服民族の差別)	性格 イスラム帝国(全てのムスリムの平等)
アラブ人 = ザカート(救済税)のみ負担。ジズヤ・ハラージュ免除 異民族改宗者(マウラー) = ジズヤ(人头税)・ハラージュ(地租)を納入 非イスラム教徒(ジンミー) = ジズヤ・ハラージュを納入	税制 アラブ人 = 土地を有する者はハラージュを加算 異民族改宗者(マウラー) = ハラージュのみを納入 非イスラム教徒(ジンミー) = ジズヤ・ハラージュを納入 ムスリムの税制上の平等が実現
●カリフの世襲化(正統カリフ時代の選挙制を改める) ●アラビア語の公用語化 ●貨幣の統制	中央集権 ●カリフの神格化(「神の代理人」として専制的に君臨) ●官僚制の整備(「カリフ」→「宰相」→「官僚・軍人」, イラン人の登用)

5 イスラム世界の変遷



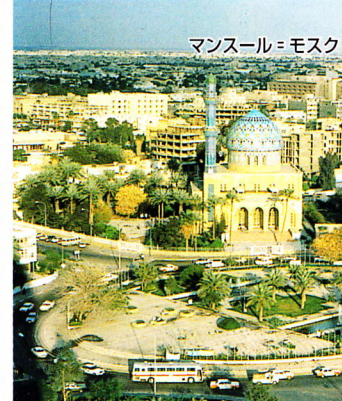
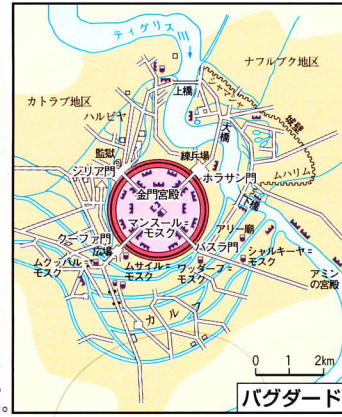
6 イスラム諸王朝の変遷



●コルドバ 後ウマイヤ朝の首都で学芸の中心。10世紀には人口50万(当時の「西欧」最大)。70の図書館があり、イブン=ルシュドラの学者を輩出。



●カイロ ファーティマ朝以後、エジプトの首都。14世紀頃は人口10万人を超え、アジアとの香辛料貿易で栄えた。



●バグダード アッバース朝第2代カリフのマンスールが建設した円形都市。「平安の都」が正式名称。円城内部に宮殿や諸官庁が置かれ、「知恵の館」ではギリシア語文献が翻訳された。バグダードは肥沃な農耕地帯の中央に位置し、東西を結ぶ陸商ルートと、バスラ経由の海洋ルートとの交差点でもある。ハールーン=アッラシード時代には人口150万人を超え、唐の長安をしのぐ世界一の都市であった。(P.105)

A スンナ派とシーア派

●スンナ派 90%
 ●シーア派 10%

預言者ムハンマドの言行(スンナ)に従う人々。ムスリム(イスラム教徒)の9割を占める。

●シーア派 「シーア=アリー(アリーの党派)」の略。アリーとその子孫のみイマーム(指導者)と認める。ムスリムの1割。イラン国教。

B イクター制

アター制 → イクター制

カリフ (スルタン)

軍役 ↑ 俸給 (アター) ↓ 軍役 ↓ 徴税権 (イクター) ↓

軍人 (軍人)

支配 ↓ 管理 ↑

占領地 (分与地(イクター))

プワイフ朝はトルコ軍人に俸給(アター)の代わりに土地の徴税権を与えたので、地方分権が進んだ。